

令和 元 年度

公益財団法人いわき市教育文化事業団予算書
(抜粋)

自 平成 31 年 4 月 1 日

至 令和 2 年 3 月 31 日

公益財団法人いわき市教育文化事業団

目 次

	ページ
・ 事 業 計 画 書 -----	1
・ 収 支 予 算 書 -----	10

事業計画書

令和元年度事業計画

平成31年度は、財団設立42年目となります。施設においては、いわき市暮らしの伝承郷が開館20周年の節目を迎えます。

文化財部門は、東日本大震災後の復興関連事業の収束に伴い、市関連の発掘調査計画がなくなり、近隣自治体の整理・報告書刊行作業を受託し、業務量の確保を図ります。

施設部門では、新たに、いわき市立草野心平記念文学館、いわき市草野心平生家、いわき市暮らしの伝承郷、いわき市アンモナイトセンター、いわき市考古資料館、福島県いわき海浜自然の家の5年間の指定管理期間が始まります。一方、いわき市生涯学習プラザが指定管理期間の最終年度にあたることから、これまでの事業実績に対する評価・検証を適切に行い、市民ニーズを踏まえた新たな事業計画案を策定し、次期指定を目指します。また、いわき市勿来勤労青少年ホームが公民館への組織改編により指定管理者から外れたことから、来年度は計8施設の指定管理者として事業を推進します。

基本理念

本財団は、埋蔵文化財の調査及び研究を行うとともに、教育水準の向上及び文化の発展に寄与するために、人の営みや地域に根ざした歴史・文化を正しく継承、発信し、新たなまちづくりに活かしていくことを目指します。

今後とも、公益法人としての社会的責任を強く自覚し、行政や地域団体等との「連携・協働」の強化を図りながら、社会ニーズを捉えた管理運営を誠実に実行します。

基本方針

- ① 教育文化の振興とまちづくりへの貢献
 - ・地域の歴史や文化を知る機会をつくり、市民にとって魅力ある運営を行います。
 - ・蓄積してきた調査・研究成果を提供し、学校教育や社会教育などに貢献します。
- ② 市民に愛され親しまれる施設の確立
 - ・多様化・高度化する市民ニーズを捉え、市民が内外へ誇れる施設を目指します。
 - ・地域の歴史や伝統を体験・学習できる施設として、機能を十分に発揮します。
- ③ 時代の変化に対応できる運営体質の構築
 - ・施設の設置趣旨に沿った事業を実行するため、適切に専門職員を配置します。
 - ・幅広く柔軟な管理運営のために、研修を充実させ、人材の育成強化を図ります。

1 文化財部門(公1 埋蔵文化財の発掘調査事業)

(1) 基本方針

当該年度の事業は、市内での試掘・確認調査では開発行為に伴う調査のほかに、史跡指定のための範囲確認調査1件を予定しています。また、発掘調査終了後に行われる整理作業、報告書作成・刊行作業は、双葉郡内の檜葉町・大熊町・矢祭町の4件を含む7件を予定しています。

これらの事業実施に当たっては、発掘調査等における安全な作業環境の確保と事故防止、事業の円滑化に努めるとともに、遺跡や資料の公開活用を図ります。

(2) 事業計画

No.	事業名	委託者	遺跡名	事業内容
1	市内遺跡発掘調査	いわき市 (文化振興課)	市内一円	試掘・確認調査 整理、報告書作成
2	市内遺跡発掘調査 (範囲確認調査)	いわき市 (文化振興課)	梅ノ作瓦窯跡	確認調査
3	埋蔵文化財発掘出土品 等整理事業	いわき市 (文化振興課)	山下谷遺跡 西ノ作遺跡	報告書刊行
4	餓鬼堂地区埋蔵文化財 発掘調査事業	いわき市 (市林務課)	餓鬼堂横穴群	報告書刊行
5	泉第三土地区画整理 事業	いわき市 (小名浜区画整理事務所)	泉町A遺跡 御前田A遺跡 御前田B遺跡	整理 報告書作成・刊行
6	基幹農道整備事業	矢祭町 (矢祭町教育委員会)	我満平遺跡	報告書刊行
7	基幹農道整備事業	矢祭町 (矢祭町教育委員会)	割目遺跡	整理 報告書作成
8	平成30年度町内遺跡試 掘調査整理作業業務	大熊町 (大熊町教育委員会)	町内一円	整理
9	井出上ノ原遺跡整理・ 報告書作成業務	檜葉町 (檜葉町教育委員会)	井出上ノ原 遺跡	整理 報告書作成

2 施設部門(公2 教育文化施設の管理運営事業)

(1) 基本方針

各施設は、指定管理者の立場を踏まえ、自らの責任と判断によって、施設の設置目的や機能に基づいた適正な管理運営を行い、公共施設の持つ意義を考え、利用者への公平かつ平等なサービスの提供に努めるとともに、利用者の意見を適宜把握しながら、質の高い事業を展開することによって、市民へのサービス向上に努めるとともに、施設の利用促進を図ります。

また、利用者の安全確保を最優先に、施設設備の維持管理に当たっては常に細心の注意を払い、快適で利便性の高い施設環境を確保するため、市・県と連携しながら施設設備の効果的な維持・補修を計画します。

(2) 事業計画

ア いわき市立草野心平記念文学館及びいわき市草野心平生家

文学館では、春、夏、秋の計3回の企画展を開催します。

春の企画展「草野心平 蛙の詩」では、草野心平（1903～1988）が蛙の詩にこめた詩想を、創作の背景、彼自身による作品への言及、そして様々な解釈によって読者の感性に問かける表現方法などから読み解き、より深い鑑賞法と魅力をあらためて紹介します。

夏の企画展「ぼのぼの原画展」では、宮城県出身の漫画家いがらしみきお（1955～）氏の代表作であり、連載から30年を超えて親しまれている4コマ漫画の「ぼのぼの」を取り上げます。展示室では貴重なコミック1巻第1話を含めた直筆の漫画原稿や歴代コミックの表紙、絵本原画のほか映像やアニメーション資料などを展覧します。また、記念撮影コーナーや、ダンボール迷路などの体験コーナーなど、夏休みの家族連れをはじめとした様々な年齢層の利用者が楽しめるコーナーを設けます。

秋の企画展「草野心平と栗津則雄展」では、草野心平と栗津館長とのかかわりを示す自筆原稿、書簡、雑誌、書籍、遺愛品、写真などの資料を展覧するとともに、個人的な交友はもとより、詩人と批評家としてのやり取りを互いの随筆などで紹介します。あわせて、館長の出演したテレビ番組等の映像作品なども紹介します。

また、所蔵品展としていわきゆかりの文学者を紹介するスポット展示を年4回、開催します。

さらに、文学関連をはじめとした多彩な事業を展開します。文芸講演会では活躍中の方を講師に招いて講演会を開催し、文学散歩、文学講座ではいわきゆかりの文学者についての理解を深めるきっかけを提供します。また、アートパフォーミング事業では、詩の朗読会、7、8月の土曜日の夜間開館時の演奏会など幅広い芸術活動にふれる機会を提供します。

生家では、「心平誕生月の記念朗読会」、没後32回忌「心平忌」・第26回「心平を語る会」、「草野天平の集い」などを開催します。

イ いわき市暮らしの伝承郷

常設展示事業は、既存の展示を基本に、資料の差し替えや追加、情報量の増加など、充実した展示とし、休憩コーナーにて収蔵資料等を紹介するロビー展を実施し、来園者のサービス向上に努めます。

企画展示事業は、2回実施します。7～9月の「いわきの郷土料理」展では、冠婚葬祭や年中行事などで食べられてきた郷土料理を写真や民具で紹介し、園内で十六ササゲなどの昔野菜を栽培、展示します。2～3月の「お雛様」展では、明治～昭和30年代までの雛人形を展示し、あわせて、ひな祭りの風習の変遷などを紹介します。

古民家維持管理事業は、伝承郷の主要展示である園内展示について、古民家を中心とした景観や昔の暮らしそのものを復元・展示し、生活文化の保存・伝承を図るとともに、来園者に癒やしの空間を提供します。

調査研究事業は、市内で行われている祭礼や年中行事、民具調査などを継続して

実施します。

講演会等事業は、改元を迎えることから、近代以降の暮らしの移り変わりに焦点を当てた「伝承郷講座」を2回、開催します。

資料整理等事業は、収蔵している資料の適切な管理を実施し、資料整理については、民具等の寄贈や企画展準備にあわせて、効果的な実施を心懸けます。

体験学習事業は、篠笛やハーモニカの音色に触れる演奏会のほか、「けん玉道場」や「正月飾り作り」などを実施し、昔遊びや伝統技術を体験、伝承する機会を提供します。

年中行事事業は、近年見られなくなった「端午の節句飾り」や「餅花飾り」、「蚊帳吊り」などを実施し、日本人が培ってきた祈りと生活の知恵を来園者に紹介します。

ボランティア育成事業は、生涯学習活動の一環として、積極的に推進します。団体来園時のガイドボランティアには、資質向上を図るため、毎月1回、意見交換等を実施します。園内民家ゾーンで野菜を栽培する花と野菜作りボランティアには、園内展示の趣旨に沿った栽培をするよう、適宜、指導と助言を行います。囲炉裏の火焚き、年中行事補助等を行う民家維持管理ボランティアは、活動の際に注意事項を確認し、事故・怪我のないよう努めます。

ウ いわき市勿来関文学歴史館

指定管理期間の2年次となります。

企画展は、4月～7月にいわき出身の俳人大須賀乙字を紹介する「乙字のトランク～大須賀乙字と近代俳句～」展、7月～10月に国宝白水阿弥陀堂の歴史や文化を紹介する「白水阿弥陀堂と徳尼伝説～いわきと平泉の発掘調査～」展、12月～3月にいわき出身の能面師を紹介する「出目洞白～いわきの生んだ天下一の能面師～」展を開催します。

講座や講演会は、それぞれの企画展に合わせて展示内容をさらに深く理解できるテーマを選定し開催します。また、会期中毎月、学芸員によるギャラリートークを行ないます。

体験事業は、夏休み・冬休みにあわせてワークショップを開催します。

スポット展示は10月～12月に、泉藩主本多忠籌の残した紀行文「こそこの枝折」をもとに、泉から田人へとたどった足跡を紹介する「泉藩主本多忠籌と「こそこの枝折」展を、3月～4月には、当館所蔵の「鳥獣戯画」の模写本をもとにわかりやすく紹介する「徹底解説「鳥獣戯画」」展を開催します。

さらには、いわき市南部の文化歴史を発信する拠点施設として、マスコミへの細かな情報提供や、ホームページ等SNSの随時更新などの情報発信に努めます。あわせて、隣接する体験学習施設「吹風殿」の開錠施錠業務を実施します。

エ いわき市アンモナイトセンター

平成31年度は前年度までに引き続き常設展示並びに体験発掘を主たる事業とし、その他の各種事業についてもあわせて展開します。

当施設の基幹事業である化石体験発掘事業については、個人や家族を対象とした

一般体験発掘を毎週土・日曜日に実施するほか、5月の連休及び8月のお盆休み、親子自然探訪教室を実施しない3連休においても特別実施日として開催します。また、学校等の団体を対象とした特別体験発掘を、原則として平日の開館日において実施します。

企画展事業は、小・中学校の夏休み期間における「いわきの微化石～幻の地層を求めて」、冬休み期間における「足沢層の二枚貝～物言わぬ海底の住人達」を開催し、双葉層群を中心にいわきから産出する化石の魅力を伝え、利用者の自由研究等に対するニーズ等にも資する展示を実施します。

体験学習事業は、親子自然探訪教室として、祝日を中心に年6回実施します。親子を対象とし、古生物学のみならず自然科学分野全般という広範なテーマでの体験学習カリキュラムの提供を通し、理科への興味と知識を育みます。

化石講演会は、例年と同様に久之浜中学校を会場として9月に実施します。夏休み企画展と連動したテーマに関する専門講師を招聘し、いわき地域の化石（主に古生代）についてのご講演をいただくことで地域の小・中学生や一般市民に化石研究の魅力を伝えます。

以上に加え、地質学・古生物学に特化した博物館であるという特色を生かし、要請に応じて学校や各種イベントに出張し、講演やミニ体験発掘などの学習プログラムを提供する出前講座を実施します。また、地域の活動・イベントを通して地域社会とのさらなる連携強化に努めるとともに、他館との連携、収蔵標本の登録・研究についても積極的に推進する事で当館の魅力や学術的付加価値の創出へとつなげます。

オ いわき市考古資料館

企画展示事業は、5～7月に第1回企画展「平成30年度発掘速報展」、9～1月上旬に第2回企画展前期 いわきの中世を探る「中世陶磁器」、1月下旬～5月に第2回企画展後期 いわきの中世を探る「中世城館跡－縄張り－」、このほか、7～9月に特別展「仮称 写真で見る仏教文化」を開催します。あわせて、それぞれの企画展の理解を深めていただくために、遺跡報告会、講演会、探訪会等を開催します。

講演会等事業は、企画展関連の講演会をはじめ、成人を対象に中世のいわきをテーマとした「いわきの考古学講座」を全5回、夏休みの親子を対象とした「自由研究に挑戦しよう!!」、質の高いボランティアを養成する「ボランティア養成講座」を開催します。

体験学習事業は、「ゴールデンウィーク体験学習会」・「夏休み体験学習会」・「古代まつり」・「いわきキッズミュージアム」のほか、ゴールデンウィークや夏・冬休みには「勾玉づくり体験会」などを開催します

今年度も、事業内容のさらなる充実を図るとともに、歴史に関する問合せや資料の貸出及び団体への解説や体験指導、また、要請により出向いて実施する出前講座等、館利用の様々な要望に積極的に応え、市民の満足度を高めていきます。

カ 福島県いわき海浜自然の家

当自然の家の管理運営に当たり、各種活動等の良好な環境の維持管理並びに体験活動の活動プログラムを充実させ、当自然の家の利用者を支援し、利用を促進するとともに、リピーターの増を図ることを目的に取り組んでいきます。

各種業務内容は、野外炊飯等の野外活動が18種類、いかだ・カヤック乗り等の海活動が8種類、雨天時や高齢者のための室内活動が6種類、また当財団の管理施設との連携事業等を加え、約75種類の体験活動プログラムを提供していきます。

利用者の安全確保に関しては、警備体制及び緊急時の体制を整備するとともに、利用団体代表者に対しては、4・5月の事前研修会時に、利用者個人に対しては、入所時のオリエンテーション時に災害及び緊急時の対応を説明します。

また、利用促進を図るため、9つの企画事業を開催します。若いボランティアの方々の養成と活動の場と位置づけ今後とも、環境・事業支援ボランティアが参加しやすい環境と活躍できる場を増やし、ボランティアの拡充にも努めます。

なお、現在活動を休止している冒険の森については、11月にはモニタリングを実施し、今後、再開に向けルート及び危険箇所等の調査を行い、再開時期等について県と協議をしていきます。

キ いわき市生涯学習プラザ

平成31年度は、指定管理受託期間の最終年度にあたります。引き続き生涯学習の拠点施設としての役割を踏まえた事業を推進し、多様な市民ニーズに応えられるよう努めます。

主催講座およびサークルやITリーダーが自主的に企画・運営する「サークル企画講座」を年間50講座前後実施します。また、ITボランティアや子育て支援ボランティアによる「ボランティア活用事業」は、参加者・利用者から高い評価を得ており、今後も継続して実施します。市民ニーズが高く応募者が多い「パソコン実用講座」は、内容の充実を図ります。子ども世代の利用を図るため、親子で参加できる講座の充実を図ります。

他団体との共催事業としては、(一社)茶道裏千家淡交会いわき支部との「お茶会」、いわき華道連合会との「生け花展」などのほか、各種団体や公民館等社会教育施設との共催事業も積極的に開催していきます。

生涯学習フェスティバルでは、3年連続で実施した特別展示が好評であったことから、今後とも、生涯学習に関する各種事業の実施や情報提供を積極的に行います。また、市民大学や生涯学習フェスティバルでは、生涯学習支援ボランティアの会と連携した効率的な事業運営を実施します。

3 管理部門(法人会計)

(1) 基本方針

財団事務局は、本財団が担う使命を職員及び各施設が一体となって遂行していけるよう、公益財団法人として、指定管理者としての立場を踏まえ、運営の方向性を明確に示しながら、各施設と連絡調整をおこない、財団全体の事業推進をサポートしていきます。

さらに、財団運営の執行にあたり、理事会・評議員会の開催を適切におこない、人事労務・事務局事務を執行し、収支相償に留意しながら、円滑な財団運営を図っていきます。

また、財団運営を支える人材育成を着実に進めるために、効果的な研修計画を作成し、実施していきます。

(2) 事業計画

ア 組織運営

円滑な組織運営を図るため、就業規則等諸規程の整備及び適切な運用を図り、限られた財源の効率的な執行を推進し、収支相償の原則を遵守します。また、施設長会議や事務担当者会議等を随時開催することにより、情報の共有を図ります。

さらに、職員採用・異動等による効果的な組織体制の確立に努め、定期健康診断の実施等による職員の健康管理にも取り組み、さらに、毎週水曜日のノー残業デーを推進します。

イ 人材育成

職員の資質向上を目指し、ふくしま自治研修センターによる基本研修への派遣をはじめ、研修会・講習会への参加促進、個人研究に対する自主研修制度の利用促進を図ります。また、「研究紀要」を刊行することにより、業務及び個人の研究成果を市民に還元します。

ウ 情報発信

各施設の業務内容や事業計画、財団の財務諸表の公開等、ホームページによる迅速な情報提供を図るとともに、充実に努めます。また、施設における事業案内については、共同チラシ等の発行・配布を行います。

さらに、財団の事業内容周知を図るため、平成30年度版「年報」を刊行します。

エ 啓発事業

公民館や小中学校、地域団体の要請による出前講座については、好評であることから引き続き積極的に実施していきます。

また、「たからものずかん」シリーズについても、継続して刊行します。

4 職員に関する事項

(平成31年1月現在)

(1) 事務局

括弧内数字：兼務職員数 単位：名

区分	事務局長 同相当職	次長 同相当職	係長 同相当職	主任職	係員	嘱託 職員	日々雇用 職員	計
事務局	1	2	—	—	—	—	—	3
企画管理係	—	1	—	1	1	—	1	4
調査係	—	1	—	3	1	—	7	12
計	1	4	0	4	2	0	8	19

(2) 施設

区分	館長 副館長	次長 同相当職	係長 同相当職	主任職	係員	嘱託 職員	日々雇用 職員	計
文学館	2	2	1	—	—	—	3	8
伝承郷	1	—	1	1	1	—	3	7
勿来関 文学歴史館	1	1	—	—	1	—	2	5
アンモナイト センター	(1)	—	—	—	1	1	4	6 (1)
考古資料館	1	(1)	—	(1)	(1)	—	3	4 (3)
いわき海浜 自然の家	1	1	2	3	—	3	7	17
生涯学習 プラザ	1	1	1	1	1	—	6	11
計	7 (1)	5 (1)	5	5 (1)	4 (1)	4	28	58 (4)

合計	8 (1)	9 (1)	5	9 (1)	6 (1)	4	36	77 (4)
----	----------	----------	---	----------	----------	---	----	-----------

収 支 予 算 書

収 支 予 算 書

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

(単位千円)

科 目	当年度	前年度	増減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益 (A)	1	1	0	
基本財産受取利息	1	1	0	
事業収益 (B)	558,389	576,027	△17,638	
文化財調査受託料	95,406	142,424	△47,018	事業受託9件
施設指定管理料	448,648	420,550	28,098	施設8件
いわき市立草野心平記念文学館	75,073	68,670	6,403	
いわき市草野心平生家	3,224	3,151	73	
いわき市暮らしの伝承郷	49,420	40,842	8,578	
いわき市勿来関文学歴史館	36,323	32,909	3,414	
いわき市アンモナイトセンター	25,256	17,211	8,045	
いわき市考古資料館	16,513	13,459	3,054	
福島県いわき海浜自然の家	148,002	145,100	2,902	
いわき市生涯学習プラザ	94,837	86,213	8,624	
いわき市勿来勤労青少年ホーム	0	12,995	△12,995	
施設事業受託料	8,024	7,685	339	事業受託3件
いわきヒューマンカレッジ	4,090	3,793	297	
未来キッズ生き生き事業	3,650	3,611	39	
吹風殿開閉業務	284	281	3	
施設利用料	6,067	5,124	943	施設1件
出版物頒布料	244	244	0	
受取負担金 (C)	0	0	0	
講師派遣料	0	0	0	
受取寄附金 (D)	0	0	0	
寄附金	0	0	0	
雑収益 (E)	600	373	227	
受取利息	5	5	0	
雑収益	595	368	227	
経常収益計 (F)	558,990	576,401	△17,411	(A～E)
(2) 経常費用				
事業費 (G)	515,287	560,249	△44,962	
給料手当	111,490	115,919	△4,429	
賞与引当金繰入額	11,609	11,368	241	
賃金	112,334	128,675	△16,341	
共済費	42,012	43,706	△1,694	
報償費	5,750	7,607	△1,857	

科 目	当年度	前年度	増減	備 考
旅費	3,919	6,932	△3,013	
消耗品費	8,251	9,977	△1,726	
被服費	231	542	△311	
燃料費	9,188	8,602	586	
食糧費	453	465	△12	
印刷製本費	18,360	22,826	△4,466	
光熱水費	33,655	33,710	△55	
修繕費	3,781	7,238	△3,457	
医薬材料費	70	82	△12	
通信運搬費	5,993	7,413	△1,420	
広告料	525	584	△59	
手数料	1,175	1,587	△412	
保険料	1,251	1,586	△335	
委託料	81,925	79,017	2,908	
使用料及び賃借料	19,326	27,162	△7,836	
工事請負費	660	2,516	△1,856	
原材料費	178	306	△128	
負担金	356	437	△81	
公租公課	26,552	24,524	2,028	
消耗什器備品費	218	1,443	△1,225	
減価償却費	15,156	15,156	0	
支払利息	869	869	0	
管理費	47,535	31,871	15,664	
報酬	399	399	0	
給料手当	21,713	11,495	10,218	
賞与引当金繰入額	2,344	1,455	889	
賃金	3,816	4,316	△500	
共済費	6,223	4,090	2,133	
報償費	248	258	△10	
旅費	648	622	26	
交際費	80	80	0	
消耗品費	686	686	0	
被服費	30	30	0	
燃料費	72	72	0	
食糧費	107	107	0	
印刷製本費	2,732	2,052	680	
光熱水費	150	150	0	
修繕費	100	100	0	
通信運搬費	346	346	0	
広告料	50	50	0	
手数料	560	518	42	
保険料	60	74	△14	

科 目		当年度	前年度	増減	備 考
委託料		446	385	61	
使用料及び賃借料		2,257	2,051	206	
負担金		741	577	164	
補償費		38	38	0	
公租公課		3,189	1,344	1,845	
消耗什器備品費		500	500	0	
減価償却費		0	76	△76	
経常費用計	(I)	562,822	592,120	△29,298	(G+H)
当期経常増減額	(J)	△3,832	△15,719	11,887	(F-I)
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益		0	0	0	
経常外収益計	(K)	0	0	0	
(2) 経常外費用		0	0	0	
経常外費用計	(L)	0	0	0	
当期経常外増減額	(M)	0	0	0	(K-L)
当期一般正味財産増減額	(N)	△3,832	△15,719	11,887	(J+M)
一般正味財産期首残高	(O)	99,113	114,832	△15,719	
一般正味財産期末残高	(P)	95,281	99,113	△3,832	(N+O)
II 指定正味財産増減の部					
当期指定正味財産増減額	(Q)	0	0	0	
指定正味財産期首残高	(R)	10,000	10,000	0	
指定正味財産期末残高	(S)	10,000	10,000	0	(Q+R)
III 正味財産期末残高		105,281	109,113	△3,832	(P+S)

資金調達及び設備投資の見込について

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

1 資金調達の見込について

借入の予定	<input type="checkbox"/>	あり	<input checked="" type="checkbox"/>	なし
事業番号	借入先	金額	使途	

2 設備投資の見込について

設備投資の予定	<input type="checkbox"/>	あり	<input checked="" type="checkbox"/>	なし
事業番号	設備投資の内容	支出又は収入の 予定額	資金調達方法 又は取得資金の使途	